

新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

## 1. 成果等報告

モデル事業名	東日本大震災による福島からおもに東京多摩地区に避難している母子家庭が地域に親しみ、ともに助け合う社会を築くための支援事業														
分類	<input type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input checked="" type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)														
事業実施主体名	避難母子を支える会議 in 武蔵野														
実施期間	2012年5月～2013年3月														
支援額 (注釈参照)	<p>※ 支援額は総額及びその内訳を記載してください。</p> <p>3,502,000円(自主財源:62,000円)</p> <table border="0"> <tr> <td>事務スタッフの person 費: 360,000円</td> <td>研修講師謝礼の謝金: 138,000円</td> </tr> <tr> <td>プログラム講師の謝金: 462,000円</td> <td>委員の交通費: 36,000円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費: 126,000円</td> <td>設備備品費: 33,000円</td> </tr> <tr> <td>印刷費: 100,000円</td> <td>通信運搬費: 50,000円</td> </tr> <tr> <td>会場費: 400,000円</td> <td>監査料: 11,000円</td> </tr> <tr> <td>事務局コーディネーターの person 費: 1,782,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務局コーディネーターの交通費: 66,000円</td> <td>計 3,564,000円</td> </tr> </table>	事務スタッフの person 費: 360,000円	研修講師謝礼の謝金: 138,000円	プログラム講師の謝金: 462,000円	委員の交通費: 36,000円	消耗品費: 126,000円	設備備品費: 33,000円	印刷費: 100,000円	通信運搬費: 50,000円	会場費: 400,000円	監査料: 11,000円	事務局コーディネーターの person 費: 1,782,000円		事務局コーディネーターの交通費: 66,000円	計 3,564,000円
事務スタッフの person 費: 360,000円	研修講師謝礼の謝金: 138,000円														
プログラム講師の謝金: 462,000円	委員の交通費: 36,000円														
消耗品費: 126,000円	設備備品費: 33,000円														
印刷費: 100,000円	通信運搬費: 50,000円														
会場費: 400,000円	監査料: 11,000円														
事務局コーディネーターの person 費: 1,782,000円															
事務局コーディネーターの交通費: 66,000円	計 3,564,000円														
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	<p>武蔵野市と武蔵野市民社会福祉協議会と東京YWCAは、避難母子を支える会議in武蔵野の事業において協議体形成を行い以下の役割を担った。ステークホルダー全員と更に地域の大学の有識経験者と地域子育てグループの代表とで運営協議会を結成し、年3回の会議における議論の中から合意形成や意思決定を図るよう進めた結果、特に「広報」「場づくり」「成果物」については具体的な検討、積極的な議論となり、効果的に取り組むことができた。</p> <p>武蔵野市: 協議体会議等への参加、事業周知・広報、事業内容・予算執行への提案・助言</p> <p>武蔵野市民社会福祉協議会: 協議体会議等への参加、事業周知・広報、事業内容・予算執行への提案・助言</p> <p>東京YWCA: 事業の運営コーディネート、協議体会議開催、企画・広報事務、予算執行・会計事務ほか</p>														
事業概要	<p>※ 事業の概要が分かるように、100～150字程度で簡潔にまとめて記載してください。</p> <p>1. 避難母子支援ボランティア養成研修講座の立案と実施</p> <p>①講座内容: 被災者に対する支援をすることは/子どものこころのケアとは/どのような対応が必要なのか/震災1周年に向けて何をすべきか/地域ができること/ボランティアとしてできること等</p>														

	<p>②講座のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理的アプローチを重視した内容の充実を図った。</li> <li>・虐待未然防止の視点を入れた。</li> <li>・長期支援の視点を持ち、息の長い支援が続けられるようアフターフォローを重視した。</li> </ul> <p>2. 避難母子が安心して集える場づくり</p> <p>①母子が一緒に楽しみ、安心して幸せなひとときを過ごせる場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節のクラフト、わらべうたあそび、季節の素材で作った汁ものを提供することを通して安心できる場を提供した。</li> <li>・みんなで子どもたちを育て、見守りあえる視点を持ち、避難母子の中においても国際・障害を問わず交流しあえる場を提供する。</li> <li>・地域を超えての交流の機会となるよう参加者一人ひとりの受け止めと配慮に努めた。</li> </ul> <p>②市民ボランティアの協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記ボランティア養成研修講座修了生の実践の場として、アドバイザーの指導の下、毎回の活動を実施した。</li> </ul> <p>・臨床心理的アプローチを重視し、活動終了後には、振り返りの時間を持ち、問題解決に向かった。</p>
事業内容	<p>※ 事業内容、実施事項、実施方法、実施の分担（直接、委託、助成を含めて）等について記載してください。</p> <p>※ 委託・助成した団体等がある場合、当該団体名等について記載してください。</p> <p>1. 避難母子支援ボランティア養成研修講座の立案と実施</p> <p>①講座内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者に対する支援をするとは</li> <li>・子どものこころのケアとは</li> <li>・どのような対応が必要なのか</li> <li>・震災1周年が過ぎ何をすべきか</li> <li>・地域でできること</li> <li>・ボランティアとしてできること</li> </ul> <p>②講座のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理的アプローチを重視した内容の充実を図った。</li> <li>・虐待未然防止の視点を入れた。</li> <li>・長期支援の視点を持ち、息の長い支援が続けられるようアフターフォローを重視した。</li> </ul> <p>③実施日程・テーマ・講師・参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/6(金)「子どもに寄り添う・家族を支える 26名 ー福島県新地町の子どもたちの夏休みプログラムからー」 日本子どもソーシャルワーク協会理事長 寺出壽美子氏</li> <li>・7/12(木)「子どものこころのケアとは 32名 ー子どもたちとの出会いの中からー」 同上</li> <li>・7/19(木)「こころとからだのほぐし方 31名 ー子どもたちと家族へのアプローチー」 国際基督教大学 高橋 伸氏</li> <li>・7/26(木)「親と子への支援ー喪失についての理解と支援ー」 24名 ルーテル学院大学 加藤 純氏</li> <li>・10/5(金)「被災者を支援すること、地域でできること 9名</li> </ul>

	<p style="text-align: center;">－共にいて、聞くことから始めよう」</p> <p style="text-align: center;">HEAL(ホリスティック教育実践研究所)主宰 金 香百合氏</p> <p style="text-align: center;">・2/28(木)「地域の中でこれからできること <span style="float: right;">8名</span></p> <p style="text-align: center;">－市民として、そしてこれから－</p> <p style="text-align: center;">ルーテル学院大学 加藤 純氏</p> <p>2. 避難母子が安心して集える場づくりの立案と実施</p> <p>①母子が一緒に楽しみ、安心して幸せなひとときを過ごせる場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節のクラフト、わらべうたあそび、季節の素材で作る親子クッキングや母のリラックスタイムなどを提供することを通して安心できる場を提供した。</li> <li>・みんなで子どもを育て、見守りあえる視点を持ち、避難母子の中においても国際・障がいを問わず交流し合える場を提供した。</li> <li>・地域を超えての交流の機会となるよう参加者一人ひとりの受け止めと配慮に努めた。</li> <li>・実施日程・テーマ・回数・参加者数</li> </ul> <p>福福カフェ</p> <p>8/30(木)「からだほぐしヨガ&amp;おしゃべりタイム」ほか21回</p> <p>特別福福カフェ</p> <p>11/21(水)「風化していく現実に思う」ほか1回 計24回 平均4.8組</p> <p>②市民ボランティアの協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記ボランティア養成研修講座終了生の実践の場として、プログラム講師の指導の下、毎回の活動を実施する。 <span style="float: right;">福福カフェ延べ 50 名参加</span></li> <li style="text-align: right;"><span style="float: right;">訪問者・取材者 20 名参加</span></li> </ul>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>※支援の成果、波及効果、今後の展望等のアウトカム等の事業の総評を記載する。(500字以内)</p> <p>支援の効果</p> <p>避難母子が安心して集える場を提供することにより地域を超えての交流の機会となり、それぞれの地域における市民としての意識の向上につながった。</p> <p>また、避難母子支援市民ボランティア養成研修講座を通して避難母子の心のケアについて、被災者に対する支援方法について等学ぶことにより市民としての意識の向上を図り、市民の震災の風化についての予防にも努めたことへの評価が得られた。</p> <p>また、避難母子が安心して集える場「福福カフェ」への参加を通して、市民ボランティアとしての意識を向上させることにつながった。</p> <p>波及効果</p> <p>今回当初は武蔵野市とその周辺の多摩地域からの参加を想定していたが、研修講座には横浜市や町田市、立川市、日野市、世田谷区、杉並区など都内各地域から集まった。更に福福カフェ(場づくり)には、東京都内の江戸川区や葛飾区から昭島市まで遠方にも関わらず参加しており、広域からのニーズがあった。参加者の感想からも「東京に避難している母子家庭の集まりに参加したのは初めて。孤立した状態だった。」「こうした会を探していた。やっと参加できた。立場は違っても、お互いを認め合い気持ちを吐き出せる場であって欲しい。」「頑張ってきて良かった。一歩がふみだせそう。」など、求められていた事業であることが伺えた。また、参加を通して互いの気持ちを出し合い、情報交換する中で、孤立感や孤独感をできるだけ少なくし、参加者間がつながっていくことが生まれた。今後もより多くの自治体</p>

	<p>や民間団体で同様の取組みが期待される。</p> <p>避難母子支援市民ボランティア養成講座実施の受講者の内数名が、受講をきっかけに本事業の場づくり福福カフェのボランティアとなり、また数名が本事業とは別の形で避難者支援の活動を始めたり、別の活動に参加するなど活動の広がりにつながった。</p> <p>今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野市、武蔵野市民社会福祉協議会、東京YWCAが合議体を作りそれぞれが持つメリット性を最大限活かしながら事業の準備を進め、子育て支援の中でも孤立感や孤独感や虐待や自身の心の病気を防止対策するなど最も支援ニーズの高い都内への避難母子に寄り添う事業が実施できたことは、何よりも助成金の有効利用の取組みの大きな成果である。</li> <li>・今後、避難母子が安心して集える場づくりを通して各地域に点在する避難母子が地域を超えて横につながり、孤立感や孤独感をできるだけ少なくするよう取り組むとともに、自らの地域の問題を協働による問題解決への取組みにより生まれた構成団体間の連携を、事業終了後についても引き続き維持し、発展させていく。</li> <li>・団体間を超えた担当者がつながったことは大きな成果であり、今回の取組みにより生まれたネットワークを活かし地域の課題に更に取り組んでいきたいと願う。</li> </ul>
評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

## 2. 添付書類

- ・避難母子支援市民ボランティア養成研修講座参加者アンケート集計結果表
- ・避難母子が安心して集える場づくり「福福カフェ」参加者アンケート集計結果表